



顔の見える居場所づくりは“助け合いの第一歩”

むらかみ互近所ささえ～る隊は、今年度、各地区のいくつかの町内を対象として、「地域の助け合いのしくみづくり」の出前講座を行ってきました。

この活動と平行して岩船地区では、地域のコミュニティ施設「源内塾」を拠点とした身近なつどいの場「いわふねのお茶の間」を、昨年10月から毎月1回開催しています。

この茶の間は、地区内からの「協力者」で運営をしていますが、運営のさらなる充実を目指し、昨年11月に先進地の「新潟市基幹型地域包括ケア推進モデルハウス実家の茶の間」を見学しました。そこで「住民が主体となって取り組むこと」「誰もが心地よく過ごせる居場所を作ること」を学び、参加者は岩船地区に合ったより良いつどいの場を目指していこうと思いを新たにしました。

互近所ささえ～る隊は、今後も地域の困りごとや隣近所の助け合いなど、さらに身近な町内での現状把握を行う予定です。皆さんの地域におじゃまさせていただきますので、ぜひ声を聞かせてください。



◀モデルハウス実家の茶の間の見学研修

●問い合わせ

介護高齢課地域包括支援センター ☎53-2111 (内線3432)

昨年8月から山北地区小俣集落に地域おこし協力隊として着任した高橋千絵です。小俣は山北地区の山形との県境にあり、標高555mの日本国と旧出羽街道の宿場の街並みがあります。

私は、木や森が好きで自然観察指導員の資格を持っていますが、実践経験がなく形だけのものでした。実際に森を案内することができる仕事を探していたところ、この日本国ネイチャーガイドと小俣集落の活性化のための協力隊募集を知り、応募しました。

着任してまずは小俣集落の皆さんに自分を知ってもらうこと、そして自分も小俣のことを知ることが必要だと思い、「日本国を愛する会」と小俣ふるさと楽校の活動、集落の行事に参加することから始めました。

現在は、個人的に小俣の皆さんの



高橋 千絵 隊員

小俣は貴重な場所です

各家を一軒一軒訪ね、お話を聞いています。

実際に小俣に住んでみると、人々が助け合って生活していること、伝統文化や昔からの行事が残っていること、行事での人々の強い団結力があることに驚きました。

各家で採れた野菜などを分けてもらったり、お茶飲みに誘ってもらったり、楽しく生活することができていて、気が付くと仕事だということをおぼろげに覚えていることがあります。

また小俣に来てわずか1か月ですが、日本国を愛する会の活動を盛り立てていくとともに、小俣集落活性化のため、昔からの伝統文化や行事を含め小俣を外に発信していきたいと思っています。



▶小俣ふるさと楽校行事、ソバの収穫

シリーズ

地域おこし協力隊通信

21

●問い合わせ 自治振興課自治振興室
☎53・2111 (内線3310)